

第4学年 国語科学習指導案

児童 4年2組 男子16名 女子15名
指導者 小田 順子

- 1 単元名 メディアの説明の工夫を見つけよう
- 2 学習材名
中心学習材 「アップとルーズで伝える」 (光村図書4年下)
補助学習材 朝日小学生新聞 毎日小学生新聞 岩手日報子どもニュース

3 単元を貫く言語活動とその特徴

写真と文章を対応させながら読み、映像を用いたメディアの説明のしかたの工夫について考え、まとめる。

本単元では、単元を貫く言語活動として、「写真と文章を対応させながら読み、メディアの説明のしかたの工夫について考える。」を位置付けた。写真と文章を対応させながら読むことは、普段何気なく目にしていくメディアの情報を、文章を根拠にしながらかorrectに受け取ることにつながる。また、映像を用いた説明のしかたの工夫について考えることは、それぞれのメディアが、目的をもって映像を効果的に使って説明していることに気付くことにつながり、自分が写真などを用いて説明する際に、生きて働く力となる。この言語活動は、「目的に応じて、中心となる語や文に着目して段落相互の関係をとらえたり、文章と写真を照応させたりしながら、文章を読む(C読むことイ)を実現するのにふさわしい言語活動である」と考えた。

4 単元について

(1) 児童について

児童は、これまでの説明文で、各段落の役割や、段落相互の関係について考える学習をしてきている。さらに、4年生の「動いて、考えて、また動く」では、文章の中の事実と意見の関係をとらえ、筆者の最も伝えたいことは何かを考える学習に取り組んだ。

写真や絵、図と文章を対応させて読む学習は、3年生の「すがたをかえる大豆」や、「動いて、考えて、また動く」でも経験し、説明文と図が関わり合っていることを理解している。

しかし、説明文の中で、写真や図が叙述と照応していることや、書き手の意図に応じて使われていることなどについては、まだ考えるには至っていない。筆者の意図や説明の工夫などについて考える指導していく必要がある。また、自分の考えを話すことが苦手な児童が多いので、自分の考えを話す機会も意図的に設けたい。

(2) 指導について

中心学習材「アップとルーズで伝える」は、テレビの映像技法アップとルーズの使い方を述べ、テレビや新聞を通して届けられる映像や写真が、送り手の意図や目的によって取捨選択されたものであることを説明している。普段テレビの映像を通して様々な情報を得ている子どもたちにとって、興味深い内容であると考えられる。教材の中で、4枚の写真が使われており、写真から読み取れることが文章で詳しく描写されており、写真と文章を対応させた説明の工夫を学ぶことができる。また、アップとルーズの違いを説明する段落が対比の関係にあることで、対比を使った説明の工夫について学ぶことができる。今後、自らの知識や世界観を形成するにあたって、メディアからの影響を大いに受けるであろう子どもたちにとって、情報を送る側の資料選択の意図や効果などを考えることを通し、情報の価値を自分自身で判断していく態度を育てることのできる教材である。

単元を通して、次の三つを大切にしていきたい。

一つ目は、「筆者の説明の工夫について考えること」である。写真から読み取れることが文章で描写されていることに着目させ、説明に写真を用いる効果を実感させたい。また、アップとルーズを対比して述べていることもとらえることを通し、アップとルーズで説明する際のポイントを学ぶことができるようにさせたい。

二つ目は、「メディアの送り手の意図を考えること」である。教材文から、テレビによるアッ

ブとルーズを使った映像技法には、送り手の目的や意図があることを学ぶことができる。広げる段階では、実際の新聞を読み、写真の使われ方や送り手の目的と意図を考え、グループ単位で交流する活動を設けたい。この活動を通して、記事の裏にある送り手の思いを感じ取ることや、情報に対する自分の考えをもつことの大切さにも気付かせたい。

三つ目は、「段落相互の関係をとらえること」である。これは、児童の実態から、力を引き上げる必要がある学習内容である。そのために、指示語や接続語が、文と文とのつながりに果たす役割を理解することや、文末表現の違いなどについて考える活動を取り入れ、段落相互の関係のとらえ方を身に付けさせたい。

本時は、実際の新聞を読んで考えたことを交流し、写真と文を対応させた説明のしかたの工夫についてまとめる時間である。自分の選んだ新聞記事から、写真の使われ方、照応する叙述、送り手の意図などについて考えたことを、グループ単位で交流する。この交流は、教材文で学んだことをもとに、自分の考えをもって学習し、考えたことを伝え合うよい機会となると考える。

5 単元の指導目標

- 写真と文章を対応させて、説明的文章に興味をもって読もうとしている。（関心・意欲・態度）
- ◎目的に応じて、中心となる語や文に着目し、段落相互の関係をとらえたり、文章と写真を対応させたりしながら、文章を読むことができる。（読むことイ）
- 指示語や接続語の役割を理解することができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（ク））

6 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語文化についての知識・理解・技能
おおむね達成できる状況	写真と文章を対応させて、説明的文章に興味をもって読もうとしている。	中心となる語や文に着目しながら、写真と本文の対応関係を読み取っている。	指示語や接続語が文と文とのつながりに果たす役割を理解している。

7 単元の学習計画及び評価計画（読むこと 9時間）

段階	時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	具体的評価規準（評価方法）
見通す	1	1 いろいろなメディアがあることに気付くとともに、新聞写真から、送り手の意図を考えることを通し、単元のめあて、言語活動をつかみ、学習計画を立てる。	○テレビや新聞、雑誌などを紹介し、私たちの生活に必要な情報を様々なメディアが送っていることに気付かせる。 ○子どもにとって身近な内容の同じ報道内容を取り上げた複数の新聞写真を見て、記事の送り手が伝えたい目的や意図があることに気付くようにする。	関—いろいろなメディアがあることに気づき、メディアの説明のしかたに関心をもっている。（発言）
		メディアの説明の工夫を見つけよう。		
	2	2 教材文を読み、写真と形式段落を対応させて、文章構成を大まかにとらえる。 ○文章の組み立てを考えること	○写真と形式段落を対応させたり、問いの段落やそれに対する答えの段落を確かめることにより、段落相互の関係に気付かせる。	関—説明のしかたに興味をもち、進んで説明文を読もうとしている。（発言、シート） 読—文章全体の構成と段落相互の関係を読み

深 め る	3	3 写真と文章の対応を考えながら読む。 ○写真と文章を対応させた説明のしかたの効果を考えること	○文と写真を関係付け、叙述に基づきながら、説明を対応させて読み取るようにする。	取っている。 (発言・シート) 読—写真と文章を叙述に基づきながら、関係づけている。 (発言, シート)	
	4	4 写真と文章の対応を考えながらアップとルーズの違いを考える。 ○アップとルーズを対応させた説明のしかたについて考えること	○対比関係にある第4段落と第5段落の文章を比較させることを通しアップとルーズの伝えられることと伝えられないことをまとめる。 ○写真と文章を対応させることを通して、アップとルーズの伝えられることと伝えられないことをまとめる。	読—中心となる語句に注目しながら、説明のしかたを読み取っている。 (発言, シート)	
	5	5 テレビと新聞の特徴を考えながら読む。 ○テレビと新聞の相違点や共通点を考えること	○テレビと新聞との比較により、それぞれのメディアでのアップとルーズの使い方について考えることができるようにする。	言—文と文との意味のつながりに果たす指示語や接続語の役割を理解している。 (発言, シート)	
	6	6 実際の新聞記事を提示し、全体で送り手の意図を話し合う。 ○実際の新聞のアップとルーズの使い方をとらえること	○全体で一つの新聞記事を見て、アップとルーズの使い方や送り手の意図を話し合う中で、新聞の説明のしかたの工夫を考えることができるようにする。	読—写真と文とを対応させて新聞を読み、送り手の意図についてまとめている。 (発言, シート)	
	広 げ る	7	7 新聞を資料に、写真の使い方や文章との対応を調べ、送り手の立場や意図について自分の考えをもつ。 ○実際の生活でのアップとルーズが活かされ方を考えること	○読み取ったことを生かし、一人一人が実際の新聞の写真からアップとルーズの使い方を見つけることができるようにする。	関—選んだ新聞から、送り手の意図を考えようとしている。 (発言, シート)
		8 本 時	8 考えたことを交流する。 ○送り手の意図について考えること	○写真や記事から考えたことを交流し、アップとルーズの使い方や送り手の意図について話し合う。	読—新聞の写真と文章をもとに、送り手の意図について考えている。 (発言, シート)
9		9 単元のまとめをする。 ○メディアの説明の工夫から学んだことを考えること	○本単元での説明のしかたのよさを考えることで、次単元「『仕事リーフレット』を作ろう」や実生活で自分が表現していく時に役立てるようにする。	読—メディアの説明の工夫について学んだことをまとめている。 (発言, シート)	

8 本時の学習（8／9）

(1) 目標 新聞記事の文章を読んだり，写真を見たりして考えたことを交流し，写真と文を対応させた説明のしかたと送り手の目的についてまとめることができる。

(2) 展開

段階	学 習 活 動	学 習 内 容 (◎主発問)	指導と評価のための工夫
導入 5	<p>1 前時の新聞記事の写真と本文の新聞記事を読み，写真や本文から考えたことをまとめる学習をしよう。</p> <p>2 本時の学習課題を確かめる。</p>	<p>○新聞記事を読み，写真や本文から考えたことをまとめる学習をしたことを確かめる。</p>	<p>○今までの学習の振り返りをし，学習であることを確認する。</p>
展開 35	<p>3 交流の手順を確かめる。</p> <p>4 グループで交流する。</p> <p>5 全体で確かめる。</p> <p>(1) グループ交流で分かったことをまとめる。</p> <p>(2) 送り手の目的について考え，説明のよさについてまとめる。</p>	<p>○交流会の手順を確かめること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真や文章から分かることを話し合い，説明のしかたについて考えることを確かめる。 <p>○グループで，記事から考えたことを交流すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～の写真を使っていて，～がよく分かります。 ・この記事は，～についての記事ですが，書かれている内容は違います。～のことを伝えるために，～の写真を使っています。 <p>○全体で確かめ合う中で，新聞の説明の工夫について自分の考えを深めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の表情や気持ちを伝えたいときは，アップの写真が使われている。 ・文章の中で写真を詳しく説明し，理解を助けている。 ・大きさや広さ，たくさん的人数などを伝えるときは，ルーズを使っている。 <p>◎記事を通して，送り手が何を伝えようとしているかを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～の思い。どんなに頑張っているかを伝えている。 ・読む人に考えて欲しい，知って欲しいという気持ちが，写真を通して伝わってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書 ・写真と叙述とを対応させられない児童には，矢印などで示せるよう支援する。 ・写真を通して分かること，記事を通して分かることが具体化できるようにする。 <評価規準> ・送り手の意図，送り手の目的について考え，分けていること，(発言・シート) ・受け手に効果的に伝わる方を選んでいくことについて気づけるようにする。

終 末 5	6	本時の学習を振り返る。	○本時のねらいにそって、振り返ること。 ・同じ題材でも、伝えたいことによつて選ぶ写真が違ふことが分かりました。	・送り手が目的をもつて書いていることや、記事から伝わる感動の根拠などを振り返るようにする。
	7	次時の学習を確認する。		

(3) 板書計画

・情報の送り手は、伝えたいことに応じて写真や映像を効果的に使い分けている。
・映像を使うことで、感動も伝わる。
・写真と文を対応させて、分かり易く説明している。

一、グループ交流

・表情
・気持ち
・細かい部分
・話し合う
・司会
・整理し、ま

※共通
※感想
ちがい

アップとルーズで伝える 中谷 日出

新聞記事の写真と本文をから分かることを交流し、写真を使った説明のよさについて考えよう。

・写真や本文から分かること
・送り手の伝えたいこと

アップ

ルーズ

